

# 投稿原稿作成要領とそのテンプレート（第9版） — Microsoft Word による投稿原稿作成例 春季例会用 —

山田太郎<sup>1</sup>, 田中一郎<sup>2</sup>, 鈴木花子<sup>1,2</sup>  
1〇〇大学農学部, 2◇◇大学大学院農学研究科

## Instruction and Template for Manuscript —Example of Posting Manuscript with Microsoft Word for Spring Regular Meeting—

Taro YAMADA<sup>1</sup>, Hanako SUZUKI<sup>2</sup>, Ichiro TANAKA<sup>1,2</sup>  
1 Department of Agriculture, 〇〇 University, 2 Graduate School of Agriculture, ◇◇ University

Keywords: agriculture, environment, remote sensing, robot arm, robust control

### I 本文書について

この文書は、関西農業食料工学会会報の投稿規程および投稿細則に従った論文を作成するための解説で、テンプレートとしても使えます。このテンプレートは本会ホームページからダウンロードできます。

### II 体裁についての解説

投稿規程および投稿細則に基づいて具体例を示しながら投稿原稿の体裁について解説します。

#### 1. 用紙と印字領域、原稿枚数について

##### (1) 用紙と印字領域について

A4 判白紙を縦置きとし、印字領域は 250×170 mm です。ここでは上下余白を 24 mm、左右余白を 20 mm に設定しています。

##### (2) 原稿枚数について

春季例会分は 1 枚とします。

#### 2. フォントの書体およびサイズについて

春季例会発表分は題名と副題の文字の大きさを 11 ポイント、それ以外の文字を 9 ポイントとします。

字体は Table 1 のとおりとします。なお、地域性の高い情報記事に関しては、英語併記および英語の表現は著者の判断によるものとします。

#### 3. 表題の部分について（1 段組）

##### (1) 題名および副題

最上行に題名を用紙の中央に印字し、副題は次の行の中央に罫線で挟んで印字します。

##### (2) 勤務先・著者名について

改行後、日本語で著者名、次行に勤務先を右寄りに印字します。著者名の右肩と勤務先の左に数字を付し、著者名と勤務先を対応させます。

1 行あけて、日本語にならって題名・副題・著者・所属を英語で印字します。

##### (3) キーワードについて

1 行あけて左端に Keywords: と印字し、続いてキーワード（英語）をコンマ区切りで並べます。

#### 4. 本文について

キーワードより 1 行あけて始めます。中央に 7 mm 前後の余白を設けた 2 段組とし、シングルスペースにて標準の文字間隔とします。単位は SI 単位を主体とし、必要に応じて従来の単位を併記します。章、節、小節の見出しの階層と番号は次のとおりです。

- I II III…ピリオド不要 (中揃え)
- 1. 2. 3. … (左寄せ)
- (1) (2) (3) … (左寄せ)
- a b c … (左寄せ)

#### 5. 図、表について

図表は英語で記述することとし、文中の適当なところに入れます。図題及びその説明は図の下に、表題は表の上の中揃えで、いずれも英語で印字します（たとえば、Fig.1, Table 1）。図表及びその中の文字はあまり小さくせず、凡例には色を用いなくて下さい。

Table 1 Designation of character style

箇所	字体
題名、副題	日本語はゴシック体、英語は Times またはそれらに準ずる字体
勤務先、著者名	日本語は明朝体、英語は Times またはそれらに準ずる字体
Keywords	Times またはそれらに準ずる字体
本文	明朝体またはそれらに準ずる字体
見出し	ゴシック体またはそれらに準ずる字体
図題、表題	Times またはそれらに準ずる字体
References	明朝体またはそれらに準ずる字体

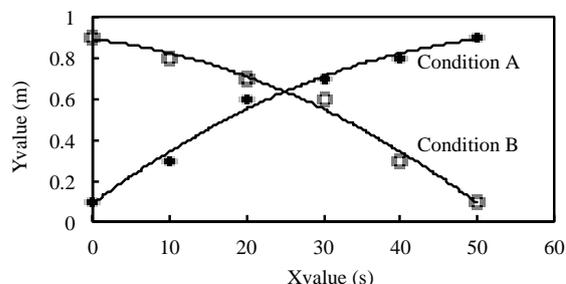


Fig.1 Example of figure

#### 6. 参考文献について

本文末尾にリストとしてまとめるときの見出しは References とし、日本語文献も他の外国語文献と同様に原則として英文で表記する。

### III 原稿の出力と提出について

春季例会分は例会当日、情報記事は編集委員会に提出してください。電子ファイル提出もお願いしています。

#### References

- 1) Kansai, T., Kansai, H.: Automatic control of agricultural tractor (Part 1) – Theoretical analysis. Journal of JSAM, 54, 1 (2011) 115-121.